

関係者各位

東新住建株式会社 住宅市場研究室

問合せ先：小間 幸一、小崎 敦史

Tel：0587-23-7461(直通)

0587-23-0011(代表)

メール：kouichi-koma@toshinjuken.co.jp

atsushi-kozaki@toshinjuken.co.jp

ホームページ：http://www.jyuseikatsu.jp/

愛知県・東京都・大阪府・宮城県の

「利用関係別・新設住宅着工戸数」の月別推移グラフ

平成24年2月版

(掲載月/平成21年3～12月、平成22年1～12月、平成23年1～12月、平成24年1～2月)

東新住建株式会社 住宅市場研究室では表記の資料を作成いたしましたので、ご案内申し上げます。

■愛知県・東京都・大阪府・宮城県の「利用関係別・新設住宅着工戸数」月別推移グラフ

国土交通省が毎月公表しております「建築着工統計調査(月報)」をもとに愛知県、東京都、大阪府・宮城県の新設住宅着工戸数の推移を利用関係別(持家・貸家・分譲戸建・分譲マンション)に、月別に折線グラフで表したものです。過去約3年間の動向を月別に一目で見ることができます。ぜひ、ご活用ください。

■愛知県に関するコメント(東京都、大阪府、宮城県を除く)

①総数(持家、貸家、分譲戸建、分譲マンションの合計)

前年同月比を下回ったが、前月比は微増であった。

②各種類の住宅の状況

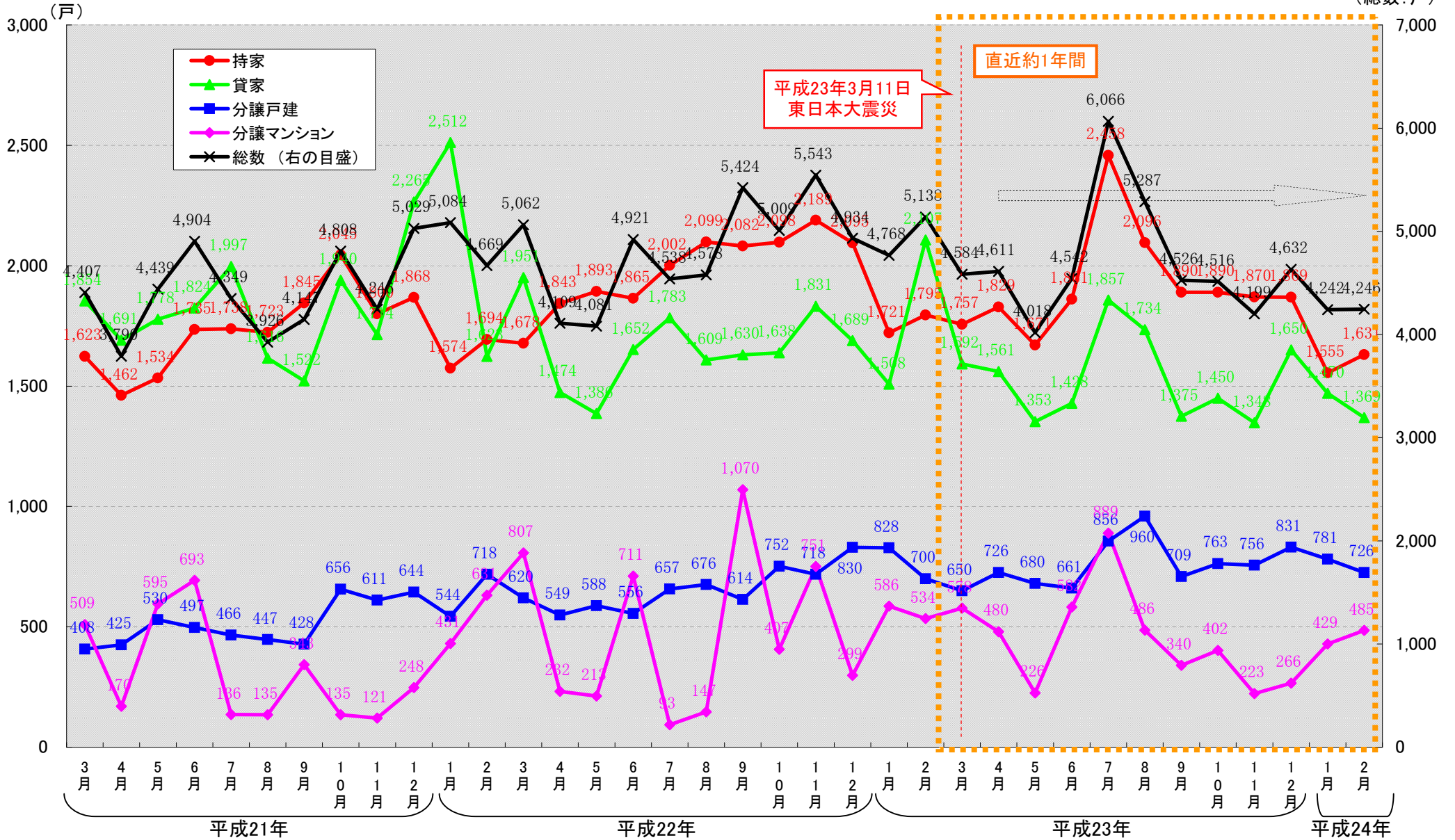
- ・ 貸家は前年同月比、前月比共に下回った。
- ・ 持家は前年同月比を下回ったが、前月比を上回った。
- ・ 分譲戸建は前年同月比をやや上回ったが、前月比を下回った。
- ・ 分譲マンションは前年同月比を下回ったが、前月比を上回った。

③まとめ

総数では前年同月比は下回ったが前月比は微増となった。急激な減少はやや止まったかに見える。ここ数ヶ月(23年8月～24年2月)の動きを見ていると4,000戸半ば前後で横ばい傾向だ。1年前の同時期(22年8月～23年2月)では5,000戸を超える水準で推移していたことを考えれば、動きが重い。要因としては、愛知県をリードしていた持家が今一步伸びないこと、同じく着工戸数をリードしていた貸家が1,300戸水準からきっぱりと離れられないことが考えられる。愛知県を牽引してきた持家、貸家にエンジンがかからない状況が続けば、県全体の着工戸数も4,000戸台で定着してしまう可能性も否定できない。ニュースでは住宅エコポイントや、円安によるトヨタ自動車の復調が報道されているが、愛知県の住宅業界にその効果が回ってくるのかどうか注目したい。

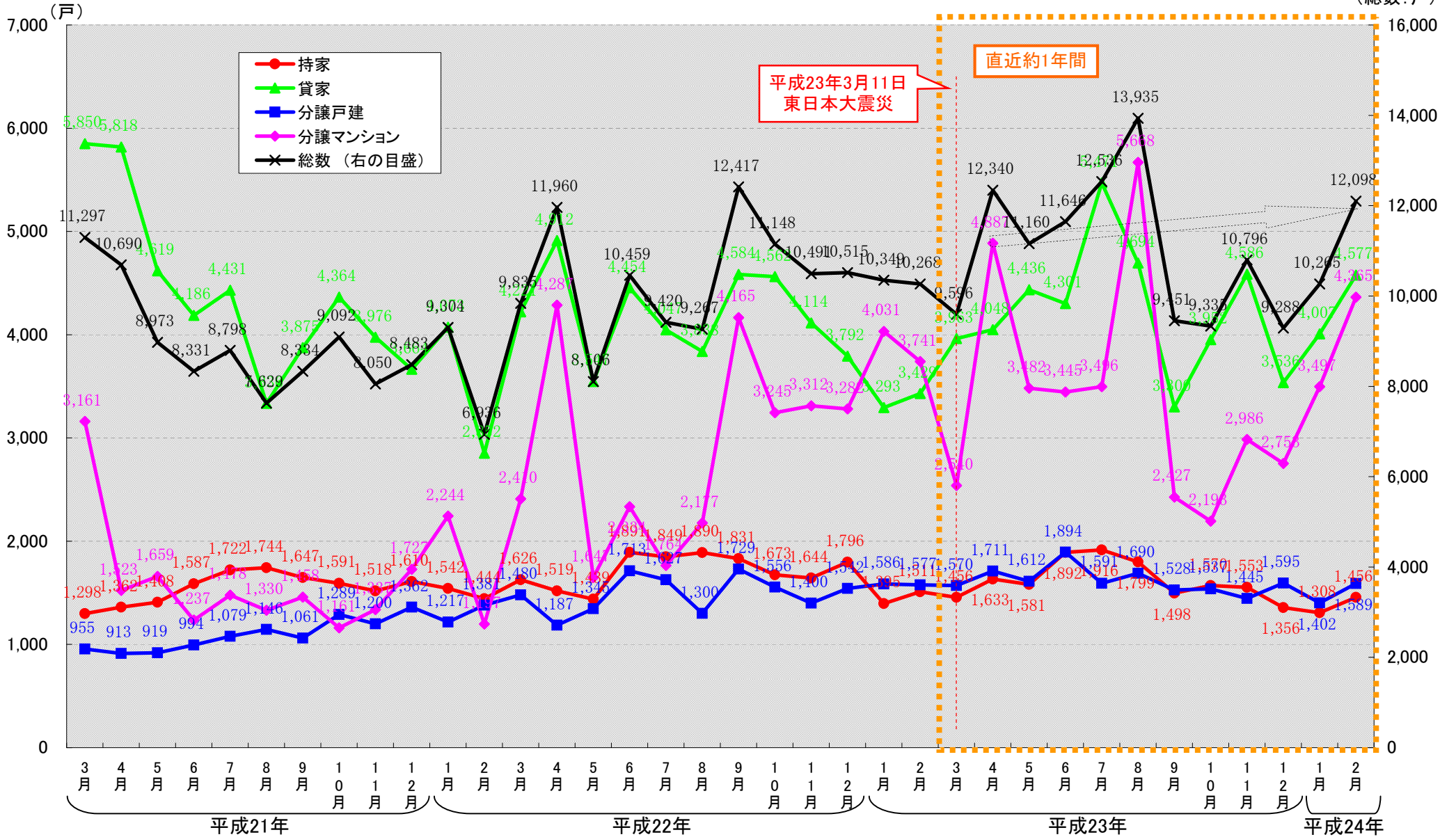
(文責:小間幸一)

愛知県 利用関係別・新設住宅着工戸数推移



※国土交通省 建築着工統計調査 http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html より住宅市場研究室にて作成
 ※「給与住宅」および「分譲戸建・マンション以外の分譲住宅」を割愛の為、総数と合計は一致しない。

東京都 利用関係別・新設住宅着工戸数推移

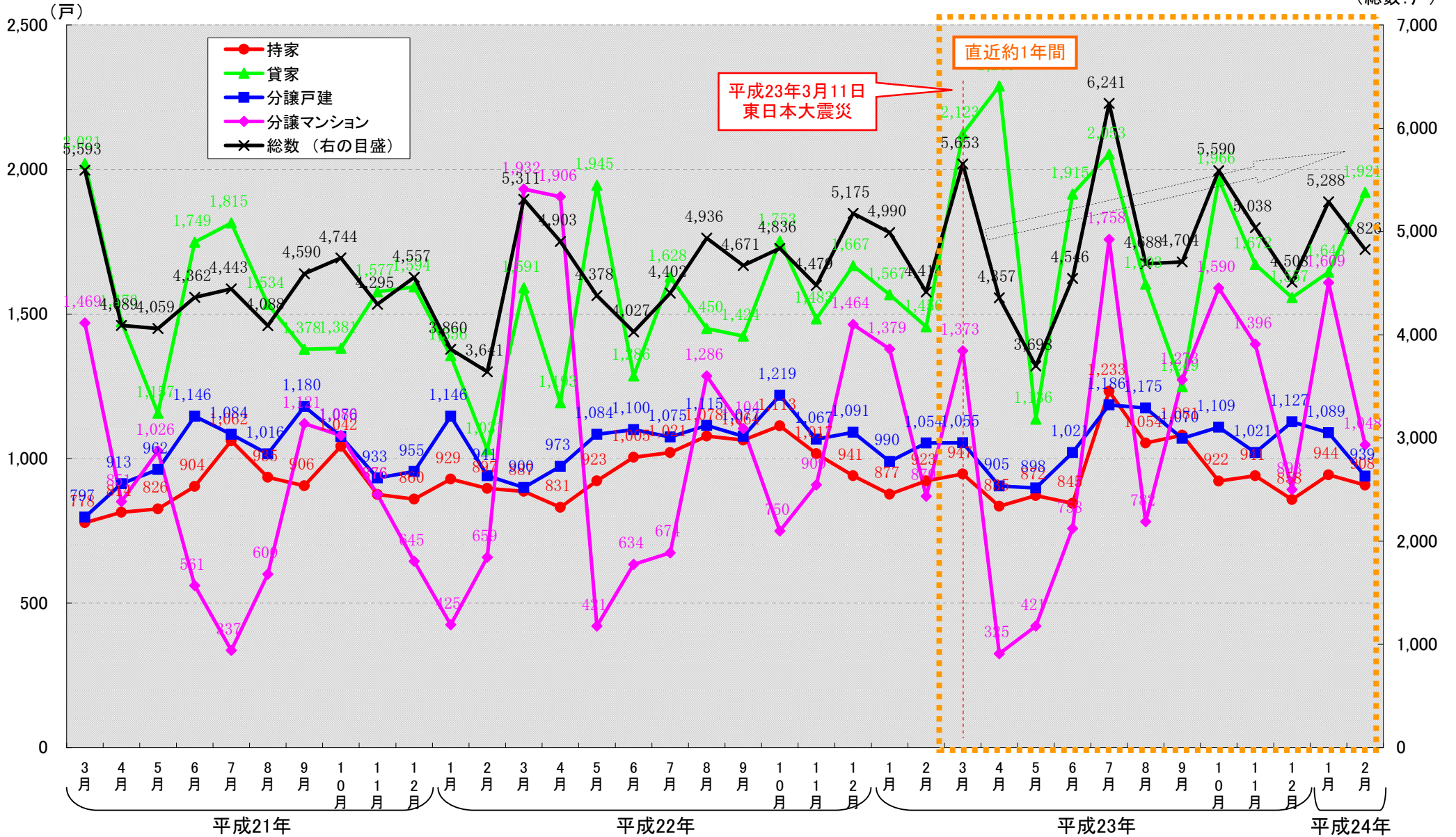


※平成20年4月～22年7月の数値は発表元(国土交通省)修正

※国土交通省 建築着工統計調査 http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html より住宅市場研究室にて作成

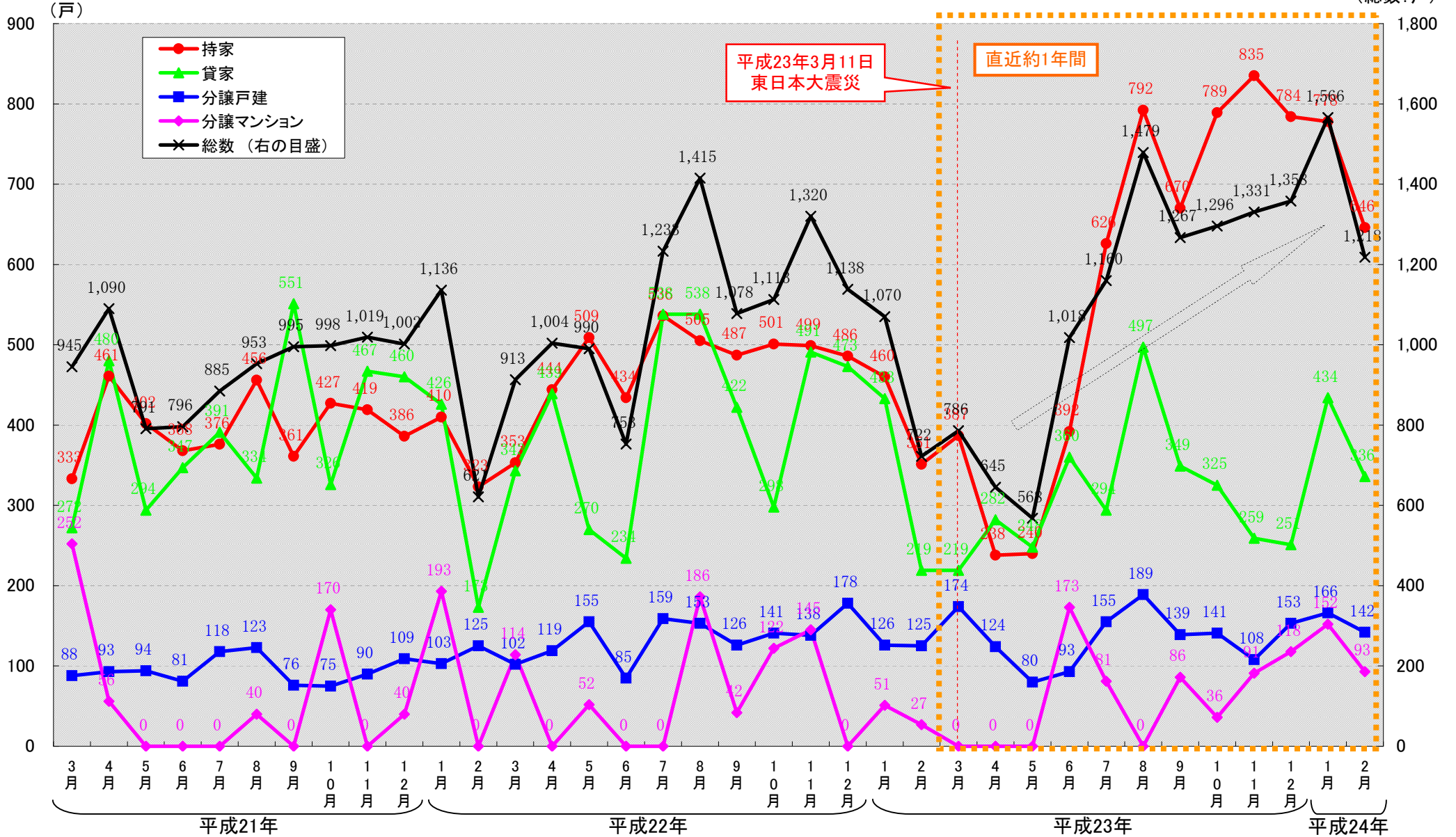
※「給与住宅」および「分譲戸建・マンション以外の分譲住宅」を割愛の為、総数と合計は一致しない。

大阪府 利用関係別・新設住宅着工戸数推移



※国土交通省 建築着工統計調査 http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html より住宅市場研究室にて作成
 ※「給与住宅」および「分譲戸建・マンション以外の分譲住宅」を割愛の為、総数と合計は一致しない。

宮城県 利用関係別・新設住宅着工戸数推移



※国土交通省 建築着工統計調査 http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html より住宅市場研究室にて作成
 ※「給与住宅」および「分譲戸建・マンション以外の分譲住宅」を割愛の為、総数と合計は一致しない。